

令和3年度 第2回スマートシティモデル事業等推進有識者委員会 議事概要

日時：令和4年3月14日(月) 10:00～12:00

場所：国土交通省6階局議室(Web併用)

※資料に基づき説明がなされた後、下記の意見交換がなされた。

○意見交換

【スマートシティモデルプロジェクトからの知見集(案)について】

- 知見集の位置づけ、スマートシティガイドブックとの関係性を明示した方が良い。特に、スマートシティを進める上では、将来ビジョンを実現する手段として新技術活用があるが、本知見集はテーマ設定や体制構築等から記載が始まるため、知見集だけを読んだ人に誤解を招かないようにする必要がある。
- 本知見集の特に第1部は実証実験から得られた知見のとりまとめであるが、スマートシティの全体の話と混同してしまう箇所があるため、位置づけを正しく記載した方が良い。
- 知見が全て並列に記載されており、全て必ず取り組むべきものに見えてしまう。重要度や目的・問題意識ごとに関係の深い箇所等の明示をすると良いのではないか。
- 知見集に記載してある内容は必要な内容であるので、その具体的な解決方法が分かる資料にしてもらえると良い。
- 第1部で、実装主体を明確化させた体制の構築の記載があるが、実証段階から実装時の詳細な費用分担まで明確にするというのは困難であり、実証時に求められるのは、リスク分担・役割分担等ではないか。
- 地域住民、関係機関等の信頼構築は非常に大切な観点であるが、一般的な記載にとどまっている。特徴的な事例等があれば掲載すると役立つと思われる。
- データの収集方法や人流解析の手法等、モデルプロジェクトから分かった技術的な知見も入れられるとよい。

【令和4年度のスマートシティモデルプロジェクトに関する取組案】

- スマートシティモデル構築ガイダンス（仮称）について、スマートシティガイドブック、モデルプロジェクトからの知見集と、資料が乱立してしまうため、位置づけを整理した方が良い。
- スマートシティガイドブック、知見集等にて一般化した知見のとりまとめは既に行っているため、一般化されにくい知見を、直接的な対話により共有する機会を設けることが今後は有効ではないか。
- 相互連携体制の構築にあたっては、単純に場を作るだけでは不十分であり、取組の芽を育てるための丁寧なフォローや工夫が求められる。
- 同一分野間の連携だけでなく、同一地区内の取組を間接便益まで含めて連携させることへの支援が有益ではないか。
- チェックリストは、〇がつかないと応募できないように捉えられてしまうため、応募時に求める資料の示し方は再考した方がよい。

以上